

報告事項ケ

鳥取県最古の旧石器時代の集落跡の発見について

鳥取県最古の旧石器時代の集落跡の発見について、別紙のとおり報告します。

平成23年11月18日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

鳥取県最古の旧石器時代の集落跡の発見について

埋蔵文化財センター

一般国道9号（名和淀江道路）の改築に伴い国土交通省倉吉河川国道事務所から委託を受けて発掘調査を実施している「豊成叶林遺跡（とよしげかのうばやしいせき）」（西伯郡大山町豊成、調査面積2,598㎡）において、今から28,000年以上前の県内最古の旧石器時代の集落跡を確認しました。

1 発見した旧石器時代の集落跡の概要

（1）旧石器時代の暮らしの痕跡そのものを確認

約28,000年前に降下した始良丹沢火山灰層（AT）の下から、旧石器時代に特徴的なナイフ形石器を含む石器など（写真1・2）がまとまって出土（石器ブロック）し、あわせて、焚き火の跡を確認しました。これらの状況からみて、焚き火をしながら石器作りを行っていたという旧石器時代の暮らしの痕跡そのもの、いわば「石器時代のムラ」を発見したといえます。

（2）遺跡全体を明らかにできる県内最古の遺跡

本例以外に県内で旧石器時代の地層から石器ブロックが発見されたのは、「もんぜんだい いせき門前第2遺跡」（西伯郡大山町門前、平成16年度に名和町教育委員会＜当時＞が調査）のみであり、いずれもほぼ同時代で県内最古の遺跡といえます。「門前第2遺跡」の場合は約10㎡の部分的な発掘調査で、情報が限定的でしたが、本例は、広い面積を発掘調査しており、遺跡の全体像を明らかにすることができました。



写真1 出土したナイフ形石器左：黒曜石製で長さ3.3cm、右は玉髄製で長さ2.8cm



写真2 玉髄製のナイフ形石器（下段3個）と剥片ほか

2 情報の公開について

(1) 記者公開

- ア 開催日時 平成23年11月1日(火)
午後1時30分から午後2時30分まで
- イ 参加報道機関 7社

(2) 現地説明会

- ア 開催日時 平成23年11月3日(木・祝)
(午前の部) 午前10時30分から正午まで
(午後の部) 午後1時30分から午後3時まで
- イ 参加者 213名

(3) 出土品の展示会

- ア 開催期間 平成23年11月9日(水)から11月23日(水・祝)まで
- イ 場 所 県立図書館2階
- ウ 内 容 出土した旧石器及び解説パネルを展示

(4) 特別講演会

- ア 開催日時 平成23年11月12日(土) 午後1時から午後3時まで
- イ 場 所 県立図書館2階 大研修室
- ウ 内 容 岡山大学名誉教授 稲田孝司氏の特別講演「豊成叶林遺跡と旧石器の生活」及び担当文化財主事による発掘調査の報告